

「土砂災害から身を守るには」

愛知県 豊橋市立豊城中学校 1年 星野 奏太

去年の夏僕の様子はテレビにくぎづけになった。そこにはたくさんの土砂が人や家を巻きこむ様子が映っていた。静岡県熱海市での出来事だ。熱海市に限らず毎年夏になるとこのような災害が全国各地で起こっている。僕は実際に土砂災害を見たことがないが、母は幼い頃土砂災害を経験したらしい。

土砂災害があったその日、小学生だった母はいつも通り学校で授業を受けていた。台風の影響で降っていた雨が徐々に強くなり、午後には子供だけでは下校できない状況になっていた。体育館で親の迎えを待ちながら、「いつもの雨と何が違うんだろう。大げさだな。」と思っていたらしいが、外に出て橋を渡ろうとした時、その違いに驚いたという。いつもは橋のはるか下を流れている水が、橋の欄干に覆いかぶさるように、何度も何度も打ちつけていた。

遠回りをしながらやっと帰宅した母は、「家に着いたらもう安心だ。」と思っていたらしい。その日はいつも通りねむりについたのだが、翌朝外に出てみると、普段は緑の山々に囲まれたのどかな土地が一変していた。むき出しになった茶色い山肌があちこちに見える。山のふもとの家には土砂が流れこみ、大木が突き刺さっている家もあった。その光景を見て、やっと母は事の重大さに気付いたと言っていた。自分の家も土砂に埋まっていたかもしれない。何もなかった事が奇跡のように思えた。こんな状況の中、さっきまでのんきに寝ていたことが恐ろしかった。

それ以来母は、土砂災害に対して人一倍警戒するようになったらしい。地震を事前に予知し、避難することはできないが、土砂災害から身を守ることは可能だ。とにかく早め早めに安全な場所に避難することが大切だと言った。

ではどのタイミングで避難すれば良いのだろうか。インターネットで調べてみた。

大雨や台風などが発生すると、私達はテレビ・ラジオ・インターネットなどから防災気象情報を得る。その際に災害発生の危険度を理解し、的確に避難行動をとれるよう定められたのが「警戒レベル」だ。レベル1は災害への心構えを高める、レベル2はハザードマップなどで避難行動を確認する段階だ。気象庁からこのレベルの情報が発表されたら、「いつ災害が起きてもおかしくない。」という気持ちを持ち、どこにどの経路で避難するか、危険な場所はないかなどを具体的に考えておくのが重要だと考えた。これをするかしないかによって、避難する時に大きな差が生まれるのではないだろうか。

そして実際に行動に移すのがレベル3（高齢者等避難）、レベル4（避難指示）だ。レベル4になったら必ず全員避難すること。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、屋内の高い所に避難する。さらに危険な最大レベル5になる前には避難を完了する。レベル5になるとすでに災害が発生している状態なので、ここからは命を守る最善な行動をする。予定していた避難場所での避難が危険な場合には、自宅の上の階や崖から離れた部屋に移動するなど、その場でとることができる少しでも安全を確保するための行動をとらなければならない。ということはレベル4になると速やかに避難しなければならないわけだが、人は自分が危機的な状況にあっても避難行動をとれない場

合があるという。そこには「正常性バイアス」「多数派同調バイアス」という二つの心理的特性が関係しているらしい。

まず「正常性バイアス」について説明する。人は危険を感じると強いストレスを感じる。しかし強いストレスは避けたいと考えるので、無意識のうちに危険を見て見ぬふりをしてしまう。つまり本当に危険な状態でも「危険だ」と思わないようになってしまう。

では「多数派同調バイアス」とはどういうものか。緊急時人は一人していると自分の判断で行動を起こしてしまう。しかし周りに人がいると「皆でいるから」という安心感で、緊急行動が遅れる傾向にある。それは結果として逃げるタイミングを失ったりすることにもなりかねない。自分が危険なのにも関わらず「危険ではない」と思ってしまうことで、災害にあうという危険性がある。

僕はこの土砂災害について調べてみて、避難することの大切さや、行動が遅れることの危なさをより知ることができた。警戒レベルが出たらたとえそれがレベル1でも、とにかく「自分はまだ危険ではない」と思わずに、もしものことを考えて情報収集に努めるようにしたい。警戒レベルにこだわりすぎず、とにかくこの状況は避難しないと危険だと判断した場合は、行動に移すことも大切だと思う。結局自分の身を守るのは自分しかいないのだ。